広重の描いた『名所江戸百景』にみる水辺空間の構成に関する研究

A Study of Composition of Riverside Space in “One Hundred Edo Noted Place Pictures” Painted by Hiroshige

須藤 訓平* 渡部 一二**

Kumpei SUTOU Kazuji WATABE

Abstract : *Ukiyoe* of the Edo period was the first common people art that their vitality had produced. It was the only mass media which supported the people's amusement, education, and fashions. We noticed that riverside was drawn in 76% of the *Ukiyoe* prints in “One Hundred Edo Noted Place Pictures” that was very popular among Edo people. And We analyzed “riverside space components” liked by Edo people in the prints. We extracted seven “riverside space components” (space expression domain, key Line, four seasons, mountain, breakwater form, plants, construction) and three “noted place components” (natural features spot system, seasons and years system, subject system) which were common to the traditional painting technique of the Japanese paintings, from the prints. We clarified the correlation between them. As a result, the riverside space compositions, that was mostly used in the prints was the one that the pine was planted in the bank, and the bridge was built. This simple riverside space composition was a flexible space structure, in which people were able to receive the annual events, history, and natural features of the season, such as evergreen pine and scattered cherry blossoms.

Keywords: *edo, noted place, riverside, desing, hiroshige*

キーワード：江戸，名所，水辺空間，デザイン，広重

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

江戸期の浮世絵は、民衆の活力が生み出した最初の庶民芸術²⁾であり、庶民の娯楽、教養、流行を支える唯一のマスメディアとして、その中心的な役割を果たしていた。特に江戸後期に広重が描いた『名所江戸百景』（以後、「江戸百景」）は、広重の実在性を改め美化するという描写力¹⁾により名所を見事に描き江戸庶民の人気を博した。浮世絵版画は、江戸人の興味の対象を把握する貴重な史料と捉えることができる。

「江戸百景」絵図には、119点中、93点（約79%）に水辺が描かれており、家永三郎氏が指摘³⁾しているように、名所と水辺の緊密な関係性が読み取れる。絵図を用いた江戸期の水辺空間研究には、橋本政子氏・堀繁氏^{4), 5), 6)}の一連の研究や江戸庶民の行動と水辺に関する研究⁷⁾などが挙げられるが、浮世絵図を史料とし、水辺を江戸庶民が眺め、楽しむなどの行為媒体（以下、鑑賞媒体という）に視点を合わせた研究はみられない。江戸は、飛鳥山など幕府によって積極的に行楽地が整備され、四季を通して多様な年中行事が行なわれていた。「名所の景観美」が100万人の都市を維持するための生活調整空間、庶民の自己解放の場として貴重な都市機能の役割を果たしていた時代であった。しかし、現代の都市計画や景観形成をテーマにデザインされた空間は、法的制限、経済優先や機能性を重視し、人間の本性が求める豊かさ、潤い、癒し、歴史・文化性に対する配慮が少ない計画論が主流を成していると指摘できる。本研究は、『江戸百景』に描写されている豊かな「人と自然環境の交流」を可能にした水辺空間の特性を明らかにし、現代の都市づくりの方向性において人間本来の景観形成に江戸期の絵図で表現された水辺空間の魅力と新たな基礎的指標を見出すことを目的とする。この目的を達成するため、江戸庶民と景観の交流を巧みに描いた「江戸百景」中に描写された水辺空間要素に焦点を当て、水辺空間を構成している基礎的な空

間構成要素：ハード要素（i）【水辺空間構成要素】と、伝統的絵画技法に見られる水辺空間を構成する山水、歳時などの景物要素：ソフト要素（ii）【水辺の名所構成景物要素】の2要素に分類し、その相関性を抽出して分析をおこない、各要素間の特性に関する考察を行なっている。

(2) 分析対象絵図の位置づけ

歌川広重と並んで江戸期の代表的風景画家の一人に葛飾北斎が挙げられる。北斎絵画の特徴について、宮尾しげお氏は、「洋画に教わるが多く今までの人々が考えていた図柄ではなく非常な創造力によるものが多い。ともすると常軌からはずれるような図柄になり広重の描写力より一段ときびしいものがあつたため広重ほどの人気は出なかった」¹⁾と述べている。江戸人に好まれた水辺名所における特性を分析するため、分析対象は文化的に成熟した江戸時代後期に描かれた水辺の名所絵であること、四季を通して江戸庶民の情緒を風景に盛り込み、さらに、色彩豊かに実在性を有し、ランドスケープ構成要素を詳細に表現した絵図であり、唯一のマスメディアとして中心的役割を果たした浮世絵版画であることに留意し、歌川広重「名所江戸百景」を分析対象とした。

2. 研究と分析の方法

(1) 研究対象絵図について

「江戸百景」119点中、水辺空間が描かれた絵図（93点）から、江戸境界基準・朱引内⁸⁾に属した絵図78点（以降、調査対象絵図）に限定し分析を行った。

(2) 絵図の分析方法

調査対象絵図から（i）【水辺空間構成要素】A空間表現領域、B軸線、C四季、D山、E護岸形態、F植栽、G構築物、（ii）【水辺の名所構成景物要素】H名勝系、I歳時系、J主題系（歴史文化）の大きくは2要素（i～ii）、詳しくは10要素（A～J）の風景要素を抽出し、表-1にまとめ、10要素を対象としたクロ

*多摩美術大学大学院環境デザイン科 **多摩美術大学環境デザイン科

A空間表現領域 (表-1-(i)-A)

表-2 水辺空間構成要素の中の A~D までの各集計表

LRJ 69 (5), 2006

図－1 『名所江戸百景』絵図描写ポイント及び空間表現領域図

図－2 『名所江戸百景』に描かれた護岸形態図

調査対象絵図に描かれた水辺空間地点を図－1にプロットし、

1. 同水系（水路、河川、池、海岸の4系）上に位置する。
2. 同地形（標高10m、20m、30mの3等高線を基準）上に位置する。
3. 絵図主題（画の景物）の一部に共通性が認められる。
4. 描かれた絵図の地点が直径1km以内にそれぞれが隣接する。上記4項目中、3項目以上該当する絵図をグルーピングし、以下、18領域にまとめ表－1に示した。表－1－(i)－Aまた、18領域の詳細位置については、図－1に示した。

18領域名称：日本橋領域、本所深川領域、大川上流領域：白鬚ノ渡から千住大橋付近、大川中流領域：両国橋付近から竹屋

ノ渡近、大川下流領域：永代橋から大橋付近、石神井川領域、中川領域、古川領域、神田川領域、築地領域、品川領域、須崎領域、外濠領域、内濠領域、不忍池領域、人工富士領域、愛宕山領域、独立型系領域。

B 軸線（表－1－(i)－B）

軸線とその表現範囲は、絵図に描かれている地形、水系、山や構築物を基準に江戸期に描かれた「安政期江戸地図」⁸⁾「数値地図1/25000」⁹⁾「東京近傍中部1/20000」¹⁰⁾と照合し、総合的に判断し、中心軸線を基準に東西南北をさらに45°で区分した8方の軸線で分類を行ない表－1－(i)－Bにそれぞれ北・北東・東・南東・南・南西・西・北西・北と明記した。

C 四季（表－1－(i)－C）

「名所江戸百景：目次」に用いられた春夏秋冬をそのまま表－1－(i)－Cに明記した。

D 山（表－1－(i)－D）

調査対象絵図中の富士、筑波、秩父、日光の遠望の山々と、庭園築山、飛鳥山、御殿山、真乳山、元富士、新富士などの江戸朱引内に存在する近望の山々を表－1－(i)－Dに明記した。

図-3 調査対象絵図における水辺空間領域概念図

E 護岸 (表-1-(i)-E)

調査対象絵図の水辺護岸形態を調べた所、①石積土堤、②木杭土堤、③土堤、④砂利堤、⑤石積、⑥木杭の6タイプに整理できた。両岸で護岸様式が異なる絵図や、片岸に2形態の護岸が確認できる絵図も認められるため、一枚の絵図から二点以上の護岸形態をもつ絵図についても表-1-(i)-Eに○印で表示した。描写技法によって護岸形態を確認できなかった絵図については、正確な分析が困難なため、測定不能(※マーク)とした。また、護岸に構造上、橋や階段を石積としている場合が認められるが、橋下、階段等の施設は、護岸形態の対象外とした。

F 植栽 (表-1-(i)-F)

水辺空間に限定した調査のため、調査対象を水辺空間領域内(図-3)に描写されている植栽に限定した抽出を行なった。抽出の結果、①柳、②桜、③藤、④菖蒲、⑤松、⑥紅葉(紅葉している表現が認められる木の総称)、⑦落葉高木(榎、樺など)、⑧針葉樹、⑨雑木(落葉木で明確な種名が確認できない木の総称)、⑩桐、⑪竹の11樹木が確認できた。また、絵図によっては、並木(◎)、独立木(○)、林(●)の3形態が認められたため、表-1-(i)-Fに上記印で表示した。

G 構築物 (表-1-(i)-G)

水辺空間に限定した調査を行なうため、調査対象を水辺空間領域内(図-3)に限定し、建築系構築物及び施設系構築物の抽出を行なった。

その結果、建築系構築物は、①寺社(武家屋敷、寺院、江戸城施設を含む)②住居、③商業、④倉庫の4要素、施設系構築物は、⑤堰、⑥橋、⑦船着場、⑧階段、⑨休憩施設、⑩井戸の5要素、合計10要素を抽出し、表-1-(i)-Gに○印で記録した。また、仮設要素を含む建築(本研究では、建築の四方に壁面がない東屋の建築)は(●)で表示した。

(ii) 【水辺の名所構成景物要素】(表-1-(ii))

日本における伝統的絵画技法は、中国神仙思想における山水の視点が意識化され、平安期に和歌、文学と融合した大和絵⁴⁾が唐絵の模写から登場する。また、雪舟の「天橋立」の俯瞰表現は、近世初期風俗画における「洛中洛外図屏風」にも表現され、平安時代以来の「名所絵」「月次絵」「四季絵」の系列に属した「大和絵」の影響が認められる。

中国から伝来された「八景」は、「特に徳川時代に入ると、八景のないところは一ヶ所もないといわれるくらい日本のいたるところで八景が選ばれ、日本中に展開される画題となっていく」¹²⁾。そうした一連の定型としての風景画は、江戸期に入り、積極的に画家自ら画題を見ることが可能になり、画家自身の個性で写実的描写等が描かれ、次第に広重風景画は、古来の名所絵の伝統と共に「厳格な写実的基礎を有する風景表現を確立していった」。成瀬不二雄氏は、「広重絵画における風景版画が平安時代以来の名所絵の伝統を継承しており、その芸術の特色は伝統的な美意識

の表出にある」¹³⁾ことを指摘している。本研究では、調査対象絵図にみる伝統的絵画技法を「水辺の名所構成景物要素」と命名し、以下、H名勝系、I歳時系、J主題系(歴史文化)の3要素、詳しくは16要素に分け、景物要素の抽出を行なった(以下3要素：H～J)。

H 名勝系要素 (表-1-(ii)-H)

①山水要素、②八景の要素、③俯瞰表現要素を名勝系要素と命名し、表-1-(ii)-Hに表示した。以下各要素について説明をする。

①山水要素 (表-1-(ii)-H-①)

調査対象絵図中で、画中に風景要素として山と水辺が同一画面に描かれている絵図を「山水」要素を有すると位置付け、表-1-(ii)-H-①に○印で表示した。

②八景の要素 (表-1-(ii)-H-②)

調査対象絵図の中で、以下8つの風景要素が描かれている絵図を「八景の要素」を有すると位置付け、表-1-(ii)-H-②に○印で表示した。以下、八景の要素の抽出条件について記す。落雁：雁のようにV字型の飛行をする鳥群が描写されている絵図。帰帆：帆掛け舟が夕暮れの水辺に浮いている風景が描写されている絵図。晴嵐：山里が山霞に煙てかすみ見える風景が描写されている絵図。暮雪：日暮れの水辺に舞い降る雪が描写されている絵図。秋月：秋の月が描写されている絵図。夜雨：夜に降る雨が描写されている絵図。晚鐘：夜の風景の中に鐘が描写されている絵図。夕照：夕焼けの中で、漁をしている風景が描写されている絵図。

③俯瞰表現要素 (表-1-(ii)-H-③)

調査対象絵図中で画面構図の位置が描かれている人物を基準に描写地点が浮遊(地面からある高さに上がった所)した視点で風景を見下ろす形で表現された絵図を俯瞰表現が認められる絵図として表-1-(ii)-H-③に○印で表示した。

I 歳時系 (表-1-(ii)-I)

調査対象絵図中に「大和絵」の系列に属した「月次絵」「四季絵」に該当するものを歳時系として取り上げた結果、以下12要素を抽出し、表-1-(ii)-Iに○印で表示した。

①花見：桜、②花見：梅、③花見：藤、④花見：菖蒲、⑤花見：紫陽花、⑥花見：合歓花、⑦花見：桐花、⑧月見、⑨紅葉狩り、⑩雪見、⑪虹、⑫年中行事(祭り、正月、鯉幟など)

J 歴史文化 (表-1-(ii)-J)

調査対象絵図画題は、その土地の歴史・文化と密接な関わりが認められるため、画題の主要テーマを抜粋し、表-1-(ii)-Jに表示した。

3. 分析結果及び考察

(1) 江戸の基本的な水辺空間の構成について

調査対象絵図における江戸の水辺空間特徴について明らかにするため、水路空間領域内(図-3)に属する表-1(i)の【水辺空間構成要素】に限定し、A空間表現領域、B軸線、C四季、D山、E護岸、F植栽、G構築物中で多数描かれた上位要素について分析を行なった。A水辺空間表現領域の18領域中、最も多く描かれた領域は、大川中流領域9点、次いで日本橋領域8点、本所・深川領域6点、大川上流領域6点であった。B軸線(表-1-(i)-B)最多数描かれた軸線は、北西20点ついで、北東15点、南西13点である。北西方向を最多数描いた空間表現領域は、独立型系領域であった(30%：6/20点)。近世の地域図が、地域の地形環境に応じて、もっとも見やすく、描きやすい方向をもって描かれている¹³⁾ことに着目すると、北西方向は、30m等高線が集中しており、江戸内においても安定した形を仰ぎ見ることが可能¹³⁾な地点が多く存在し、比較的、構図が安定した描写しやすい

図-4 調査対象絵図にみる基礎的水辺空間要素集合図

絵図-1 11: 目黒新富士

絵図-2 16: 柳しま

方向であったように思われる。C 四季（表-1-(i)-C）春・夏が共に 25 点，秋・冬が共に 14 点描かれており，春・夏に水辺名所が集中している。また，春・夏を多数描いた空間表現領域は，大川中流領域（14%：7/50 点）であった。D 山（表-1-(i)-D）最多数描かれた山は，富士山 11 点，次に筑波山 8 点である。富士山が多数描かれた空間表現領域は，日本橋領域（約 36%：4/11 点）であった。富士・筑波については，（3）-(i) 山水要素を骨子にした分析結果で述べる。E 護岸形態（表-1-(i)-E）多数順に，土堤 28 点，石積 18 点，木杭土堤 18 点が描かれており，調査対象絵図中で最も多用された水辺護岸形態は土堤（約 36%）である。多数描かれた空間表現領域は，独立型系領域（25%：7/28 点）であった。F 植栽（表-1-(i)-F）最多数描かれた植栽は，松 33 点次いで，雑木 16 点，桜 9 点があげられ，調査対象絵図中で最も多用された植栽は，松（約 42%）であった。また，松を多数描いた空間表現領域は大川上流領域（約 18%：6/33 点）であった。G 構築物（表-1-(i)-G）最多数描かれた構築物は，橋 32 点次いで，商業施設 19 点休憩施設 8 点が多く描かれ，調査対象絵図中で最も多用された構築物は，橋（約 41%）であった。また，多数描いた空間表現領域は日本橋領域・大川中流領域の 2 領域（共に約 16%：5/32 点）であった。

上記から，空間表現領域ごとに水辺空間構成に特徴があることがうかがえる。また，調査対象絵図にみる基礎的水辺空間の構成を明らかにするため，上記 E 護岸，F 植栽，G 構築物における最多要素を抽出した結果，土堤に松が植樹され，構築物として橋が架かっている水辺空間構成が最多数描かれていたことがあきらかとなった。つまり，図-4 が多用されている要素を集合した調査対象絵図にみる基礎的水辺空間要素集合図である。多用されている要素を多分にもっている絵図を絵図-1，絵図-2 にあげた。

（2）江戸人に人気を博した「江戸百景」における水辺の名所構成景物要素

H 名勝系要素（表-1-(ii)-H）

①山水要素

（3）-(i) 山水要素を骨子にした分析結果で詳細に触れる。

②八景的要素

八景的要素は，絵図全体の約 36%（28/78 点）に用いられており，多数描かれた空間表現領域は，日本橋領域（約 18%：5/28 点）であった。八景は，「強い詩的映像喚起の力をもつ」¹⁴⁾ ものであり，小林享氏は，「各気象現象を効果的に見せるポイントが押さえられれば，景観はより豊かな内容を持つようになる」¹⁵⁾ と指摘している。八景的景物は，「落雁，帰帆，晴嵐，暮雪，秋月，夜雨，晚鐘，夕照のうち帰帆，晚鐘のみが人事にかかわることで，他の 6 景はすべて自然現象であり，水辺の地で，帰帆，晚鐘の景物があれば，八景は成り立つ」¹³⁾ ことを指摘しており，江戸でも有効な景物であったことが伺える。

③俯瞰表現要素

調査対象絵図中約 51%（40/78 点）に用いられており，多数描かれた空間表現領域は，独立型領域（約 15%：6/40 点）であった。『65：よし原日本堤』（絵図-3）¹⁾（絵図-4）⁸⁾ を例に挙げると，画中左上部に吉原を表現し，日本堤の吉原へ向かう人々が江戸名所として描かれており，俯瞰表現要素の役割の 1 つに眺望性と加えて，絵地図¹⁶⁾ としての効果があげられる。面的な地域の歴史・風俗などの景物要素に水辺空間が付加することでさらに名所性が醸成されているように思われ，水辺空間と景物要素の密接な関係性が伺える。

絵図-3 65: 吉原日本堤

絵図-4 安政期江戸地図

I 歳時系（表-1-(ii)-I）

（3）-(ii) 歳時系要素を骨子にした分析結果で詳細に触れる。

J 歴史文化（表-1-(ii)-J）

主題系（歴史文化）は，調査対象絵図すべてに描かれた名所構成景物要素であった。宮尾しげお氏は，「浮世絵に表された景色は，ある時は主役であり，ある時は，借景である。こうした場所について当時の人は知りすぎていた。」¹⁷⁾ と述べている。つまり，浮世絵に描かれた名所の背景に，年中行事，風俗など江戸庶民文化によって画題が選定されていると推察され，江戸の水辺空間と水辺の名所を構成する「景物」との相互作用によって，「江戸百景」における水辺名所が成立しているといえる。次項では，水辺の名所構成景物要素の山水要素及び，歳時系要素を骨子とした分析を行い，水辺空間構成要素と水辺の名所構成景物要素の相互関係分析を行う。

（3）水辺空間構成要素・水辺の名所構成景物要素の相互関係分析結果

（i）山水要素を骨子にした分析結果

山水要素は，絵図全体の約 33%（26/78 点）に用いられている。多数描かれた空間表現領域は，日本橋領域（富士山 4 点），大川上流領域（筑波山 3 点・日光山々 1 点）・大川中流領域（富士山 2 点・筑波 1 点・真乳山 1 点）の 3 領域であった。山水要素が多用された水辺空間構成は，木杭土堤 28% に植樹された松（44%）と架け橋（40%）からなり（表-3 参照），図-4 調査対象絵図にみる基礎的水辺空間要素集合図と近い構成になっている。歳時系要素では，富士山，筑波山，御殿山，庭園築山などの遠近の山々を望む花見（桜）の風景が多く描かれている（表-3 及び

表-3 山水要素を骨子とした要素関係を示す集計表

[illegible]

表-4 歳時系要素を骨子とした要素関係を示す集計表

	A 空間表現領域										B 軸線				C 四季				D 山				E 護岸形態				F 植栽				G 構造物				H 名勝所																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	水路系 (日本橋)	神田川系 (大川系)	大川系 (中川系)	中川系 (外)	荒川系 (内)	荒川系 (外)	荒川系 (内)	荒川系 (外)	荒川系 (内)	荒川系 (外)	北 東	東 南	南 西	西 北	春 夏	夏 秋	秋 冬	東 山	南 山	西 山	真 珠 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山	秩 父 山

絵図-1 参照)。また、富士・筑波の描かれた空間表現領域は、大川下流領域は富士のみ(2点)を望み、上流領域は筑波のみ(3点)、中流領域は、富士・筑波(2点・1点)同時に眺望が可能な唯一の空間表現領域となっている。井田太郎氏は、「富士・筑波の絵図が都市の祝祭的な空気、いわば江戸じまんを醸成する装置として使用される」¹⁸⁾ことや、富士筑波の型が「都會」の景物として位置づけられ、同時に江戸の風光明媚さを強調する景物であったこと¹⁸⁾について指摘している。富士・筑波の二山を眺望できた大川中流領域が18の空間表現領域中で最も多く描かれていることなどからも、風光明媚な領域であったことが伺える。また、大川中流領域は、吉原ルートにおける交通の輻輳点⁷⁾であったことから、『18:真乳山山谷堀夜景』や『69:御厩河岸』など吉原風俗の影響を受けたとみられる絵図が多くみられ、歳時系要素は、大川水系領域内で、最多数描かれた領域であった。

(ii) 歳時系要素を骨子にした分析結果

歳時系要素で多く描かれた景物要素順に挙げると、①花見：桜（15点）②年中行事（11点）③雪見（6点）であり、調査対象絵図における歳時系要素に花見が最も愛用されていたことがあきらかとなった。花見が行なわれた水辺空間では、遠近の山々が（約53%：8/15）絵図に描かれ、花見に山を望む水辺空間が多数みられる事は、山水を骨子とした分析と一致する。花見、年中行事、雪見が行なわれた上位の水辺空間構成は、土堤に松並木と架橋であった。これは、図-4 調査対象絵図にみる基礎的水辺空間要素集合図と一致する。調査対象絵図における水辺が、「基本的な水辺の空間構成」に「歳時系要素」が表現される形で水辺の名所が多数成立していることを示している。つまり「調査対象絵図の基本的な水辺の空間構成」が、景物要素の多様な変動を受容できる柔軟な構成空間であったといえる。

4. まとめ

江戸人の人気を博した歌川広重「名所江戸百景」の全 119 点中、93 点（約 79%）に水辺が描かれており、水辺空間では、花見（桜）や祭り、雪見、紅葉狩り、月見など多種多様な自然環境と人の交流としての鑑賞媒体が描写されている。本研究は、「江戸百景」に描かれた水辺と鑑賞媒体との関係について、その特性の解明を行なった。その結果、調査対象絵図の基本的な水辺空間（図一 4）が、瑠璃の松と散華の桜にみられるような歴史・文化、歳時系要素、山水要素、八景の要素など水辺の名所構成景物要素を内包し、景物要素の変動を多面的に受容できる柔軟な水辺空間

であったことを明らかにした。現代の河川計画では、水辺空間領域に集中した計画が進められる傾向にあるが、「人と自然環境の交流」を可能にする水辺空間を計画するためには、四季の移ろい、歴史・文化、山水における眺望軸線や、八景要素に見られる気象変動などを効果的に創出させる水辺空間を成立させているステージとの相互作用を含めて再考する必要があると考えられる。本研究は、基礎的な水辺空間構成要素と水辺の名所構成景物要素を対象に関係性の分析を行っている。今後、各要素の小項目等について詳細な分析、さらに各要素ごとの関係性について分析を行なうと共に、江戸人に好まれた絵図を拠り所とした現代都市空間に再生しえるデザイン手法の確立を目指してゆこうと考えている。

引用文献

- 1) 宮尾しげお解説 (1974) : 名所江戸百景絵図 : 日本浮世絵体系 16 巻 / 17 巻
- 2) 成瀬不二雄 (1998) : 葛飾北斎と歌川広重の風景版画 : 日本絵画の風景表現, 309-320
- 3) 成瀬不二雄 (1998) : 平安時代における名所絵の成立とその画題 : 日本絵画の風景表現, 21-28
- 4) 橋本政子・堀繁 (1997) : 江戸の河岸の空間デザインとその規範に関する研究 : 第 32 回都市計画学会学術研究論文集, 283-288
- 5) 橋本政子・堀繁 (1998) : 江戸の水辺の樹木・緑地の立地とそのデザイン規範 : 第 33 回日本都市計画学会学術研究論文集, 655-660
- 6) 橋本政子・堀繁 (1999) : 江戸の川岸の張り出し・引き込みとその効果 : 第 34 回都市計画学会学術研究論文集, 37-42
- 7) 荒井歩 (2000) : 江戸下町の水辺における庶民の遊行行動に関する研究 : ランドスケープ研究 63(5), 639-642
- 8) 兄玉幸多監修 (1994) : 復元・江戸情報地図・安政期江戸地図 : 1854-1860 年縮尺 1/6500 : 朝日新聞社
- 9) 国土地理院 (2002) : 数値地図 1/25000 : 国土地理院
- 10) 陸地測量部 (1880) : 東京近傍中部 1/20000 : 陸地測量部
- 11) 渡部一二 (2002) : 水路の用と美 : 山海堂
- 12) 樋口忠彦 (1978) : 風景と形 : 日本の美術 13, 65-67
- 13) 山田安彦編集 (2001) : 方位読み解き事典 : 柏書房, 35-36
- 14) 芳賀徹 (1986) : 比較文学研究 50 号, 4
- 15) 小林亨 (1987) : 景観の移ろい効果に関する基礎的研究 : 造園雑誌 50(5), 263-268
- 16) 成瀬不二雄 (1998) : 風景表現における桃山時代日本絵画の風景表現 : 日本絵画の風景表現, 146-154
- 17) 宮尾しげお解説 (1974) : 名所江戸百景絵図 : 日本浮世絵体系 16, 66
- 18) 桐敷眞次郎 (1971) : 天正・慶長・寛永期江戸市街地建設における景観設計 : 都市研究報告 24 號
- 19) 井田太郎 (2005) : 富士筑波という型の成立と展開 : 國華第千三百十五號